

KAED E



M A G A Z I N E

特集

まだ見たことのない「英和」をさがして。

誌上参観日

AUTUMN /
WINTER 2016

VOL. 12



特集

誌上参観日

在學生や卒業生にとって、毎日の学院生活はあまりにも当たり前な風景の連続です。

でも、立場や時代によって、同じ風景が違って見えることもあるはず。

もしかするとそこには意外な発見があるかもしれません。

今回の特集では、「卒業生やその近親者として英和に一定の予備知識を持ちながら、まだそこに足を踏み入れたことが無い」という方々に、いまの英和の日常を、参観していただきました。



東洋英和幼稚園

なかおゆうこ
中尾有子さん(楓美会会長・左)
すずきけいこ
鈴木慶子さん(楓美会副会長・右)
中尾さんは中学から、鈴木さんは大学から英和。「噂に聞く、英和幼稚園の自由な保育風景を参観できるなんて本当に楽しみ」(中尾さん)。

▶▶ p3

小学部

かまいたかし
笠井爾示さん(写真家)
雑誌や広告を中心に一線で活躍されている写真家。高1の娘さんは中学から英和。自身は10代までのほとんどをドイツで過ごしたため、日本の小学校生活に興味津々。

▶▶ p5

中高部

うちさかつねお
内坂庸夫さん(編集者)
妻の芳美さんは幼稚園～短大と生粋の英和卒業生。自身は、雑誌「Tarzan」や「Popeye」などに創刊時から携わる名物編集者。「妻の原点を探ってみたい」。

▶▶ p7

大学・大学付属かえで幼稚園

よしもとなほこ
吉本直子さん(ライター)
高等部卒業生。医療系の雑誌や書籍を中心に、取材や執筆、編集を手がける。「私が英和にいた頃の大学は短大でした。もちろん、横浜キャンパスに行くのは初めてです」。

▶▶ p9

今号の表紙

今号の表紙は、特集記事で小学部の撮影をしていただいた写真家・笠井爾示さんの一枚。芸能人やアーティストのポートレート撮影で有名な笠井さんですが、相手が誰であろうと、その人らしい自然な表情を捉えられるのがプロの仕事。初対面なのにこんな笑顔を撮るなんてさすがです。5～6ページには他にもたくさんの「英和の笑顔」を掲載しています。

聖書の言葉

「あなたはその岩を打て。
そこから水が出て、民は飲むことができる。」
出エジプト記17章6節

本当はモーセに求めるのではなく、神さまに祈るべきでした。そうすれば、不要な争いも不安もなかったはず。必要なのは、祈り、神さまの御心を求めること。神さまからの答えを得てご用をすることができたモーセは幸いです。

日本基督教団 鳥居坂教会 牧師 野村 稔

CONTENTS

特集

02 誌上参観日

11 東洋英和ビジュアル歴史館 File.1
英和が始まった場所

13 KAEDE People 第12回
独立行政法人国際協力機構(JICA)カンボジア事務所
戸倉 裕子さん

15 Event Report
東洋英和楓の会主催 春の講演会
中村 哲先生

18 Event・Report・Topics

東洋英和幼稚園



汚れてもへっちゃら。



いつもは園児が元気に駆け回っている園庭。部屋の中からじっと水たまりを見つめている子たちも。

やっぱりお弁当の時間はみんな大好き。



園児と一緒に遊んでいるように見える先生たち。でもその目は常に周囲の園児たちの安全に。



さあ、お迎えの時間ですよ。



帰りの時間になると、気持ちを切り替えて身支度を始めるのは、英和の幼稚園児ならでは。

噂に聞く 自由な保育は、 本当に自由でした。

この日はあいにくの雨模様でした。園のホールに入った2人は、決められた遊びではなく自分たちがしたい遊びを自由気ままに楽しむ園児たちの様子に興味津々。ノコギリやカナヅチを使っている年長の子たちには、ちょっとびっくり。「子どもたちは体験を通して、道具の特徴を身をもって学んでいきます。」(園長先生)。

遊びが終わると、切り替えてきちんと片づけをする園児にまた感心しきりの2人。この後も、お弁当の様子を見たり、階上で作業をしていたお母さま方とお話したり、先生と一緒にお見送りをしたり。最後まで驚きと笑顔に包まれた参観でした。

とっても活発で礼儀正しいのが印象的でした。



行き届いた配慮があってこそその自由保育ですね。



安全に配慮した木製遊具がたくさんあって素敵！

雨の日でもお部屋でこれだけしっかり遊べるのは理想的ね



お昼ごはんはお弁当が基本。「お行儀良くみえるのは気のせいかしら」(中尾さん)



英和の顔ってどんな顔？

写真家がレンズを通して見た英和の風景。授業中も、休み時間も、クラブ活動の時間も、そこにはいつも英和らしい笑顔があふれていました。

小学部

撮影：笠井爾示



中高部

運動大好きなスポーツ&フィットネス雑誌の編集者に、こともあろうに女学校取材の依頼が来ました。中学校の授業を参観して、彼女たちがどんな学校生活を送っているのか、言葉にあらわしてほしい、と。

女子マラソン選手、女子テニス選手ならまだしも、取材対象はまったくの別世界、東洋英和のお嬢さまたち。それも中学生、高校生です。汗と涙のスポ根物語とは畑が違う、お腹を凹ます筋トレとは世界が違う、何をどう尋ねていいものやら……。もちろん丁寧に断りました。

ですが、困ったことに英和訪問と聞いて、あることを思いついてしまいました。実は身近なところに英和の卒業生が存在しています。彼女は幼稚園から短大まで16年を学院に在籍、筋金入りの、絵に描いたような英和生。この英和育ちならではの言動(みなさんならおおよそ見当はつくでしょう)の数々に、驚いたり感心したり、日々飽きることがありません。英和を卒業して10年経っても20年経っても、「三ツ子の魂百まで」を地でいく、ばりばり現役英和生です。

いつの間にか頭の中に大きな「マーク」ができてきました。英和生は幾つになっても英和生なのでしょう。か？ 英和らしさ(三ツ子)はわかっています。って、いったいなに？ 麻布・鳥居坂に通う女子はいつ、どうやって英和生になるのでしょうか。長年抱えていた謎を解くチャンスが目の前にあります。

気がつけば夏のある日、英和の講堂の入口で讚美歌と聖書を携えていました。英和生たちが講堂に入っていきます。おしゃべりなし、無言で整列して進み、さくさくと席につきます。讚美歌のあと、この日は「主

自分たちで自然に作っていく「英和らしさ」。

がベタニアで香油を注がれる」というお話、ふむふむ凡人にもわかりやすい。そうかなるほど、英和生は毎朝、いちばんに「敬神奉仕」の基礎を学ぶのか。そして、お昼過ぎまでいくつかの授業を参観させてもらい、何人かの英和生と先生たちにインタビューしました。

ボールを弾ませ走りまわる彼女たち、ミシンを踏む彼女たち、「せんせ、せんせ」と職員室に駆け込む彼女たち、PCを操作してプレゼンテーションする彼女たち、こちらのとんちんかんな質問にも賢く答える彼女たち……。

幼少期・少年期の家庭環境、教育環境は人格の形成に大きな影響を与えますが、東洋英和女学院もある種の共通キヤラクターを育んでいます、それも他に類を見ない、いわゆる英和生と呼び呼ばれる特別な氣質。英和生キヤラは卒業しても決して消えることなく、むしろ彼女たちの人生を自信をもって進ませています。興味津々、そして充実の半日でした。なぜ「他に類を見ない特別な氣質」が育つのか、そして肝心の英和生の中身が明確になってきました、彼女たちの共通項が見えてきました。独断と偏見、大いなる勘違いかも知れませんが以下に並べてみます。

- ① 独特なキヤラが育つわけは？
① 同じような家庭環境の「大切に育てられた」子女が集まるから。英和卒業生は家族や親近者を英和に入りたいと思うし、オープンスクールなどで在学生の「優しさ」「思いやり」に触れると自分もあなりたい、この学校に入りたいたいと願い、そのような子女が入学するから。
- ② 建学の理念である「敬神奉仕」が日々、礼拝という日常で語られ、また聖書の授業で詳しく説明されるから。
- ③ 小学部からの在学生たちが、中学受験で入ってきた

たアウェイの子どもたちに、聖書を開くところから英和の一から十までを教えてあげるから。1ヶ月もすると全員がホームになっています。また、ステーション部活は先輩後輩の規律がしっかりしていて、そこでも「英和生」は連綿と伝えられてゆきます。

④ 野尻キャンプという学年を超えた「みんなで助け合」共同生活体験も英和生を作り出す。

ではその独特な「英和生」らしさ、って何でしょう？

① いちばん大きな共通項は、主から、隣人から「私は愛されている」「見守られている」という絶対的な自信でしょう。家族から、先生から、学友から、世界中から愛されているという安心と余裕が学内の「居心地のよさ」「英和大好き」につながります。彼女たちにとって英和は「おうち」です、先生も同級生も等しく家族です。また、「愛されている」「守られている」という自信は、学外では彼女たちの鎧や剣になってくれます。何をやっても平気、恐いもの知らずにつながり、ときにハラハラさせられます。

② 小さい頃から自我がはっきりしています。自分の意志、意見を持っていて、周囲を気にせず考えた事をまっすぐに貫いてゆきます。頑固ですが、わがままと言われる手前で折れる賢さも持っています。

③ とりわけ、他人に優しいのです。自分のことはさておき、真っ先に困っている人を助けます。世話好き、お節介と言われたりもします。

④ 幼稚園は別ですが、女子だけで過ごすため、実年齢より幼く無邪気に見えます。「愛されている」「自信」からでしょうか、小さいときから英和生であることに誇りを持っています。時と場所、相手に応じた礼儀作法、立ち居振る舞いを心得ています。びっくりするほど外面がいいとも言えます。

英和生のみなさん、どうでしょう、この答えはあっているでしょうか？



大学 かえで幼稚園



緑に囲まれた横浜のキャンパスは、歩いているだけで自然のパワーがもらえそう。チャペルでは、昼休みの時間に礼拝が行われていた。

やりたいことを「自分で見つける」ための場所

初めての横浜キャンパス訪問は、かえで幼稚園からスタート。大学キャンパスから離れた、たまプラーザの住宅街にあるこの幼稚園には、スクールバスがない。保護者と手をつないで登園し、クラス担任が迎える身じたくをして園庭に駆け出す子どもたちは、朝から元気だ。年長組ではこの日、ケニアから来園したエスタ先生を迎えての礼拝から一日が始まった。スウィリ語で「ジャンボー」と挨拶を交わし、一緒に讃美歌をうたい、折る。

礼拝を終え園長の大瀬知子先生が「さあ、1週間の始まりの月曜日です。今日は何をして遊ぶか、もう決めていきますか?」と問いかけた。「今日は、○○をします!」ではない。もちろん集団活動をする時間もあるが、自由に遊ぶ時間に何をやるのかは、子どもたち一人ひとりが自分で決めて動き出す。

この自由を重んじる保育は、放任主義とは違う。一人ひとりの子どもがそれぞれ自分のペースでやりたいことを深めていくのを見守る先生たちには、柔軟性と忍耐が必要だろう。個々の成長過程を尊重する心があったからこそ保育だということが、よくわかった。ここで育つ子どもたち、うらやましいなあ。

幼稚園を後にして、いよいよ大学へ。3時限目に、人間科学部・渡辺和子教授の「人間科学基礎演習Ⅰ」を聴講する。2年生が履修する科目で、宮崎駿の映画からひとつを選び、その作品で語られる主題について自分なりに考えて発表するという。この日は、「ハウルの動く城」「千と千尋の神隠し」について、3名の学生が発表を行った。まず、登場人物とあらすじをまとめ、自分なりのテーマを見つけて論じた。「ハウルの容姿と心の変化はどう連動しているか」「ソフィのコンプレックスと容姿の変化の意味とは?」あるいは「千尋の両親の言動と湯婆婆との相違点など、若い学生たちの視点はなかなか刺激的。発表後は、渡辺教授のコメントに続いて、出席者全員が他者の発表について意見を述べる。



人間科学部2年生の授業風景。ジブリ作品をひとつ選び、自分なりに分析してプレゼンテーションする。



学生たちは、口頭発表のためにスライドを準備し、レジュメを配る。提出したレポートは、製本されて1冊に。



人間科学部の渡辺和子教授は、東洋英和女学院大学死生学研究所の所長を務める。2003年に設置された同研究所は「学際的な死生学」を目指して活動し、毎年、公開講座を開催するほか、「死生学年報」を出版している。



「学生が大きく成長するのは、3年生の春から4年生の初夏にかけての1年間。実際に企業の説明会に出席し、採用試験や面接を受けるという経験を経て社会の厳しさを知り、1年前とは別人のような顔になって大学に帰ってきます」(キャリアセンター・高野澤さん)。相談ブースの机には、それぞれにティッシュの箱が。ここで流した涙は、社会に出ていくために決して無駄にはならないだろう。

かえで幼稚園の木登りに感動!

園庭に根つき高く伸びたイチヨウの木。一番下の枝は年長児がやっと飛びつけるくらい高いところにあるけれど? 大瀬先生曰く、「大人が抱っこして木登りを手伝うことはしません。自分で登れるのを待ちます。最初の枝に自分の力で飛びついて上られる子なら、体力や木登りの体験からして木のてっぺんまで登らせても大丈夫だと思えるからです」。なるほど、納得!

木登りの木に下げられた札。チャレンジしたい子どもが来たら、大人は手を貸さずに見守るのが英和スタイル。



右) 園庭の畑には、子どもたちと同じくらいの背丈のカカシが。これも子どもたちの作品だとか。そろそろ美味しそうなおピーマンが収穫できそう。

左) 礼拝でのひととき。子どもたちはじっと目を閉じて、何を思っているのだろう。



右) 園庭のプールで遊ぶ子もいれば、虫取り網を持ってかけまわる子、室内で工作に没頭する子もいる。

左) 園庭の奥にある木工室には、鋸や金槌などの道具が並ぶ。年中クラスの子どもが、先生に見守られながら、鋸を使ってギコギコと板を切っている。踏ん張った両足が真剣だ。



渡辺教授は、学生たちの発表の中身はもちろん、スライドやレポート作成の基礎の学習も重視していて、「文献を引用した部分と自分の意見の部分は、きちんと区別して書くこと」「作品名には、二重カギ括弧を付けて」などと細かく指摘していた。4年生で卒業論文をまとめるための準備なのだろう。

授業が終わわり、今度は「キャリアセンター」へ。進路について、学生にどんなサポートをしているのか知りたかったのだ。話を聞かせてくれたのは、高野澤しのぶさん。大学設置準備室からの最古参の事務スタッフだ。

「本学のキャリア形成支援の特徴は、正課の授業としてのキャリア教育とキャリアセンター、学習サポートセンターの3つの柱で構築されていて、有機的に連携して学生を支援していることです」

まず、1・2年次に開講される「キャリア設計Ⅰ・Ⅱ」という科目がある。就活が始まってから慌てないよう、早い時期からしっかり自分の将来を見据えキャリアについて考えるのだ。一方で、学習サポートセンターが、自学自習に必要な力を養うための支援や資格試験の対策講座などを行う。そして、キャリアセンターが各種の就職セミナーや個別の相談を通して、就職活動の実践的な支援を担う。就職決定率98%、就職満足度92%の実績は、この3本柱の連携の成果なのだろう。

「顔と名前が一致している支援ができるところが、本学の強み。個々の学生の進路と状況は、ほぼ把握しています。まだ内定のない学生には電話をかけて「最近どう? こんな求人があるけど、受けてみたい?」と励まします!」

共通していたのは、成果主義ではなく、園児や学生が自分のやりたいことを自分で見つけ、それに向かう姿を尊重し、支援するスタイル。うーん、素敵。やっぱり英和だわ!

今号から始まるこのコーナーでは、東洋英和にまつわる写真や歴史的史料などをもとに、ビジュアルで英和の歴史を紐解いていきます。



File.1

英和が始まった場所

現在も東洋英和の校舎が建つ鳥居坂。名の由来は、江戸時代初期、坂の上に鳥居丹州侯の屋敷があったからだといわれている。

一説には、麻布氷川明神がむかし大社のころ、ここに二の鳥居があったからの名ともいう。(『増補港区近代沿革図集 麻布・六本木』 港区教育委員会刊より)

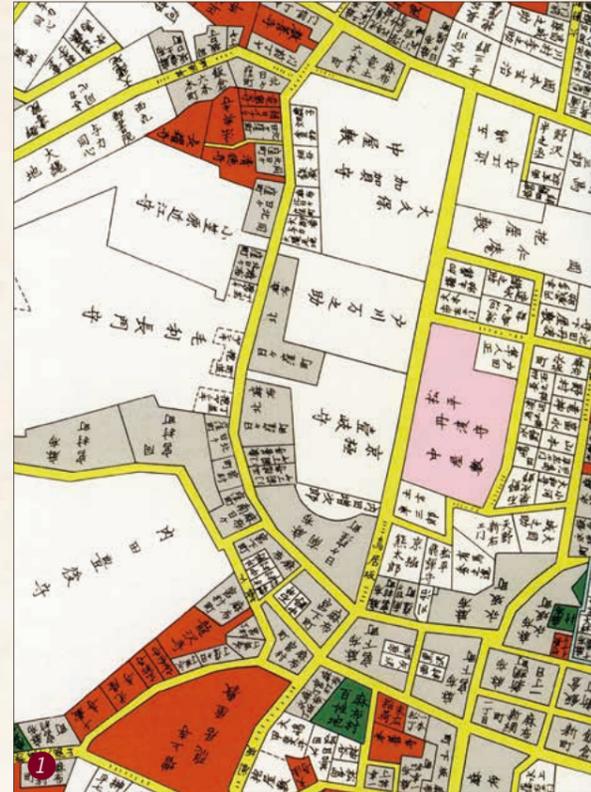
1884年(明治17年)の開校以来今日に至るまで、「鳥居坂」は東洋英和と切っても切れない場であり、卒業生はじめ関係者にとって心のふるさとであり続けている。

- 1 1862年(文久2年)の鳥居坂。現在、中高部の校舎が建つあたりは松平丹波守、東洋英和幼稚園・小学部は大久保加賀守の中屋敷となっている。
- 2 丘の上の建物が東洋英和学校(現 麻布学園)とされる。麻布十番あたりの風景。1885年(明治18年)
- 3 最初の校舎。1885年(明治18年)
- 4 1896年(明治29年)。鳥居坂の右に「東洋英和学校」「麻布尋常中学校」そのさらに右上に「東洋英和女学校」の文字が見える。この後、1900年(明治33年)に移転した。
- 5 1924年(大正13年)。中高部のほぼ現在の位置に「東洋英和女学校」がある。東洋英和幼稚園・小学部は「李王世子邸」。

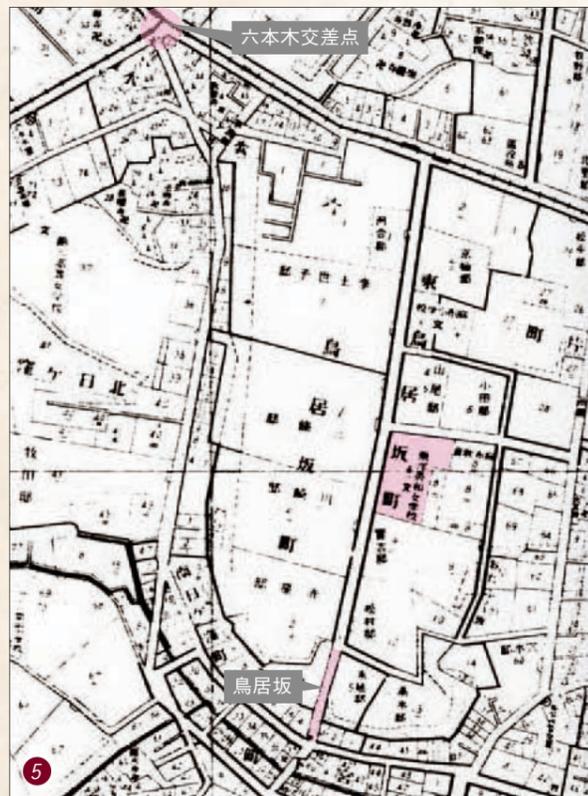
1885



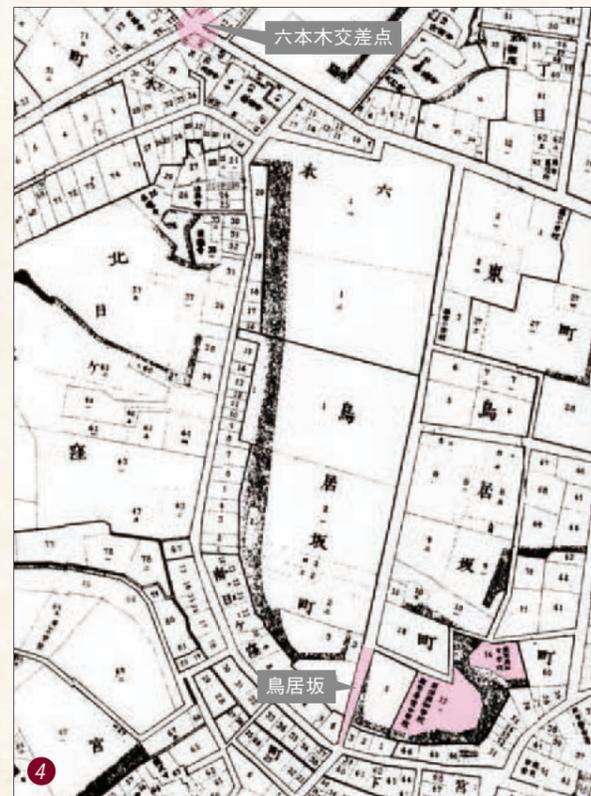
1862



1924



1896



『増補港区近代沿革図集 麻布・六本木』 港区教育委員会刊

今いる場所で とりあえずやってみる

独立行政法人国際協力機構(JICA)
カンボジア事務所

戸倉裕子さん



初めての海外勤務で 支援の重要性を再認識

今回、休暇で一時帰国。取材後に都内で英和の同級生たちと旧交を温める予定だという戸倉裕子さんだが、「東京のラッシュに耐えられず、ここにはもう住めないかも」と感じです」と苦笑いを浮かべる。国際協力機構(JICA)カンボジア事務所に赴任したのは、2014年12月。広報担当として、カンボジアにおける日本の政府開発援助(ODA)事業や支援活動について現地の人々に知ってもらい、あるいは日本国内に向けてそれらがどのように役立っているのかを発信することが主な仕事だ。

「カンボジアは日本が最初に青年海外協力隊を派遣した国の1つ。昨年はその50周年記念に加え、南部経済回廊の一部を成すメコン川のネアツクルン橋(つばさ橋)が完成し、それらのPRに追われました。今、私たちが重点を置いているのは産業人材育成です。カンボジアは20年間の内戦から復興し、近年は7%の経済成長を続けていて、首都プノンペンでは日本を含む外資系企業の進出が相次いでいます。しかし、内戦の影響で未だに人材不足に悩んで

いるのが現状です。当面は産業の発展に必要な質の高い人材をどうやって育てるかが大きな課題であり、広報としても力を入れたいテーマの1つです」

実は戸倉さんにとって、今回のカンボジアが初めての海外勤務だという。92年に海外経済協力基金に就職し、以来、総務、人事、秘書、広報といった管理部門で働いてきた。

「基本的には現場で頑張っている人を裏でサポートする仕事です。もともと海外志向はないし、性格的にも前に出るのが嫌いなので、自分には向いているなど思っていました」

しかし、組織変更に伴ってJICAに転属したことで状況が変わる。JICAに勤務する職員は海外勤務が必須で、意思とは無関係に海外に行かざるを得なくなったのだ。

「最初は抵抗していました。ずっと管理部門だったので事業の細かい手続きも知らないし、歳も歳だし、今さら私が行って何ができるんだろうと思っても、でも実際に現場を見ることが、初めて仕事の全体像がつかめた。何のため、誰のための支援なのかを改めて認識しました」

日本も戦後しばらくは国際社会の援助を受けていた。復興を遂げ、アジア

「英和にいた時も同じですが、たとえばこを辞めて他に行っても、あまり変わらないかと思っていて。それよりも今いる場所ですりあえずやってみる、そしてその中で自分の得意なことを見つけて、それを生かしていくというのが私のやり方。あれほど嫌がっていた海外勤務だって、今は日の丸を背負う気持ちで仕事をしている。そんな自分に自分でビックリしていますが(笑)」

英和で過ごした6年間は、今の戸倉さんにつながっているのだ。◆

諸国への賠償として始まったのが、日本のODAだ。その目的や在り方は、国内外の状況の変化とともに変わってきたが、基本にある理念は「安定と繁栄」だと戸倉さんは話す。

「国際協力というのは、豊かな国が貧しい国に何かを施すことではありません。当事国の政策に基づいてサポートを提供し、お互いの発展と利益に寄与することであって、対等な関係の上になり立つものです。特に貿易依存国である日本は、途上国との関係を深めていかないと生き残っていけない。そのためには安定と繁栄が必要で、その土台づくりを担うのが私たちJICAの役目だと思っています」

苦手だった女子校生活も 今につながっている

中学部から東洋英和へ。選んだ基準

は、「受験科目が2科目(当時)」だったこと、「土曜日がお休み」だったこと。しかし、いざ入学してみると、想像以上のお嬢様学校だったことに戸惑った。しかも自宅から離れていたため、家を出るのは毎朝6時半。何本も電車を乗り継いで、学校に着く頃には疲れ果てていたという。

「朝の礼拝がなければもっと寝てられるのになあ(笑)。ただ、土曜日に一人で美術館や映画に行くのが楽しみで、その点に関しては英和に来て良かったなって」

周囲とのズレを感じながら過ごした6年間。そのおおもとの原因は、集団行動が苦手なことにあると気づいたのは大学に入ってからだ。

「女子校ってトイレに行くのも着替えをするのも一緒、という空気がある。それが大学に行けば、学食で一人で食べていてもヘンな目で見られない。好



英和時代。集団行動が面倒くさかった、と言いつつも笑顔



地雷処理現場の視察。JICAは機材などを提供している

メコン川にかかる「つばさ橋」。カンボジア紙幣のデザインにも使われている



現地スタッフと共に



とくら ゆうこ
独立行政法人国際協力機構(JICA) カンボジア事務所
1988年高等部卒。92年早稲田大学第一文学部心理学科卒業後、海外経済協力基金(OECF)に就職。99年組織統合で国際協力銀行(JBIC)へ。この間、役員秘書や広報を担当。2008年、組織改編に伴いJICAに転属。JICAでは、広報、人事(新卒採用活動)などを担当。さらに、JICA関西(神戸)で途上国行政官の研修受入や民間企業との連携業務に従事。2014年よりカンボジア事務所に赴任。カンボジア事務所では、広報活動の他、カンボジア人スタッフの労務管理、採用などの業務を行っている。

中村 哲先生「アフガンに命の水を」

2016年6月11日、楓の会では、医師の中村哲先生をお迎えして春の講演会を開催しました。今回は、長年にわたりパキスタン・アフガニスタン地域で行っている、医療、水源確保、農業支援などの活動について、「アフガンに命の水を」と題してお話いただきました。

土着化することで診療を継続

活動のきっかけは、1984年パキスタンのペシャワールで行われた「ハンセン病根絶5か年計画」に参加したことです。私の任務はハンセン病治療センターの設立でしたが、患者数2,400名に対して、ベッド数はわずか16床。パンを焼くオーブントースターにガーゼの入った金属のボールを入れ、煙が出かけた頃に取り出す。狐色に焦げていれば消毒済み、白いは未消毒。こういう状態でした。「モノやお金をもっと必要」ということで、現地活動を支える日本のペシャワール会の活動が活発化し、現在に至っています。

私たちが活動を始めたのはソ連軍侵攻の数年後で、難民キャンプで細々と診療を続けていましたが、大きな転換がありました。“ハンセン病コントロール”自体が先進国側のアイデアであって、実状に即していないと判断したんです。ハンセン病が多いということは同時に他の感染症の巣窟であることが多く、それも山中の貧しい人たちに多い、ということを知ったのです。そこで、ハンセン病の多発地帯に入って行って、一般的な診療をしながら、ハンセン病を特別扱わずに感染症の一つとして診る、という方針を打ち出しました。

ソ連軍撤退の後を追うように、アフガニスタンの山岳地帯に診療所を次々と建設していきました。ところが、ハンセン病コントロール達成宣言が出ると、一斉に援助が引き上げられてしまった。話題性がある間はヒトもモノもカネも集まるが、話題性が無くなると嘘のように引いてしまう。でも、私たちは患者を診続けなくてはならない。ハンセン病は、その後のケアまで含め一生に近い付き合いが必要です。「日本からの補給が続く限り、全部は無理でも、この地域の患者だけでも継続して診よう」と自前の病院を建て、現地に土着化することで診療継続できる体制ができたのが1998年でした。

命をつなぐために井戸を再生

体制が整い、「さあ、今から」というときにアフガニスタンを襲ったのが、2000年夏の世紀の大干ばつでした。国民の半数

に相当する1,200万人が被災しました。

当時、私たちの診療所の周りからは村々が次々と消えていきました。つい最近まで栄えていた村が、半年の間に砂漠と化す。そして、子どもが汚い水を口にして赤痢などで死んでいく。水がないということは、飲み水はもちろん、食べ物も採れない。そのために栄養失調になって抵抗力がなくなり、簡単な病気でも死ぬんです。若いお母さんが小さい子を胸に抱いて、時には何日もかけて診療所にやってくる。生きてたどり着くのはまだましで、外来で列をなして待っている間に、子どもが胸の中で冷えていくという姿は、ごく一般的に見られました。

清潔な水、十分な食べ物さえあれば、とりあえず命をつなげられる人たちがいる。そこで、残った住民たちを集めて、枯れた井戸の再生を始めたのが2000年6月でした。その後の5年間で約1,600か所で清潔な飲料水を確保、という大きな仕事に発展しました。

報道と現実の激しい落差

2001年9月10日米国同時多発テロが発生すると、翌日からアフガン報復爆撃しかるべし、という流れが作られました。私たちはそれに反対して、「テロに加担しているのは一部の人間。アフガニスタンに必要なものは、爆弾の雨ではなくて、パンと水である」と主張しました。が、10月に首都カーブル空爆が始まりました。

流された映像は、ほとんどは爆弾を落とす側の映像であって、落とされた側の映像はなかったと思います。実際行われたのは無差別爆撃で、真っ先にやられたのが、お年寄り、子ども、女性、弱い人たち。そうこうするうちに、タリバン政権が倒れました。すると、世界中がまた映像に騙された。当時日本で盛んに流された映像は、「女性を圧迫する極悪非道のタリバン」「自由と正義のアメリカ軍や同盟者を歓呼の声で迎えるアフガン市民の姿」。これが繰り返し流される。そして、アフガン問題は忘れ去られていきました。

実際は何が起きたか。それまで絶滅に近かったケシ畑が、米軍の進駐と共に見事に復活し、数年も経たずアフガニスタンは

世界の麻薬の90%以上を供給する麻薬立国に転落しました。確かに自由はやってきた。麻薬栽培の自由。女性も自由になった。女性が外国兵相手に売春する自由。これは決して言い過ぎではないと思います。

江戸時代の知恵をアフガンに

復興には農業用水が不可欠ということで、カレーズと呼ばれる地下水利用の灌漑設備を復旧していったのですが、干ばつで地下水が枯渇してしまう。そうなると大河川からの取水以外にないという結論になり、河川から水を引く「緑の大地計画」を2003年から開始しました。

計画当初、現地にある道具はつるはしとシャベルだけでした。これには私も面食らいましたが、「業者や技師に頼れば立派なものができるかもしれない。でも誰がメンテナンスするのか。地元の人たちの手で作り、自らメンテナンスし、子孫へ受け継いでいくべきではないのか」と思い直しました。

そしてたどり着いたのが、私の郷里福岡県の筑後川にある江戸時代から稼働している「斜め堰」という古い水利施設でした。建設された220年前はダンプカーも重機もなく人力だったはず。アフガニスタンでもできないことはない、これをコピーすることから始めました。10年後、アフガンに江戸時代の取水堰が完成しました。水路の壁も江戸時代からある蛇籠。針金の籠の中に石を詰めて重ね、その裏側に柳の木を植えると、根が石の隙間に入ってきて、針金が錆び落ちて、伸びた柳の根が生きた籠となって壁の構造を崩さない。現地にはコンクリートは無くとも石が豊富にあります。しかも、アフガン人の農民なら石の積み方に習熟しています。

神の望まれる「和解」と「恵み」を

この十数年を通して、予備軍まで入れると約1,000名の熟練工集団が作られました。現在彼らが中心となり、取水設備の整備が次々と行われ、当初目標の9割近くを達成しています。数年後には1万6,500haを潤し、65万人の人々がここで安心して生きていける農村地帯が復活する予定です。困っている地域は他にもたくさんありますから、熟練工集団をさらに増やし、他地域に展開しようという計画を立てています。“東部穀倉地帯の復活”を目前にして、みんな希望を持って生きています。

私たちはあらゆる勢力と協力しています。「政府だ」「反政府だ」とか、もうそんなことはどうでもいい。「まず手を取り合って生き延びよう」と。次の展開に向けての努力も続けられています。

この三十数年間を振り返って浮かぶキーワードは、「和解」と「恵み」です。私たちは、武器があれば未来を守れるとか、金さえあれば豊かになれるという錯覚に陥りがちです。神は人間に



本当に必要なものをすべてご存じです。それを人間はなかなか発見できていない。争いによって恵みは決して発見できません。人と人はもちろん、人と自然が和解することで、恵みを実感することができ、次の新しい世界が築かれていくのだと私は思っています。我々はどこに行くべきでしょうか。いまの時代こそ、神の恵み、神の望まれる和解が必要ではないでしょうか。◆

会場との質疑応答

医師として脂が乗りきる38歳で、なぜ現地医療に従事しようと思ったのか？

「最初に訪れたのは32歳で山岳隊員としてヒンズークシ山に登ったとき。『こんなところで暮らしながら仕事をしたい』と思っていたら、ペシャワール行きの話が来た。『あそこだったら』という軽い気持ちで受けたのがきっかけです。我々クリスチャンには便利な言葉があって、『そこに召された』と理解いただければ(笑)」

現地で受け入れられるために必要なことは？

「基本は、『その人が何を欲しているのかを知る』『危険な仕事ほど先頭に立ってやる』です。これができれば、たいていの人は付いて来ると私は思います」

英和でも国際貢献や国際協力という志を持つ生徒は多いが、どのような能力や資質が大事か？

「いかに相手の話をよく聞き、相手の気持ちをよく理解するか、だと思います。志が尊くても、我々はいち独りよがりになりがちです。単に理解するのではなく、自分に対する謙虚さも必要です」

※この内容は当日の録音テープを元に一部割愛・再編集したダイジェスト版です。

■ Profile

中村 哲氏

1946年9月15日、福岡県生まれ。73年九州大学医学部卒業。国立肥前療養所、大牟田労災病院、馬場病院を経て、84年パキスタン・ペシャワールでハンセン病診療を開始。ミッション病院ハンセン病棟医長、ジャパン・アフガン・メディカルサービス顧問、ペシャワール・レプロシー・サービス病院院長、ペシャワール会医療サービス病院総院長を歴任。現在、ピース・ジャパン・メディカルサービス(平和医療団・日本)総院長。

Event

東洋英和女学院大学

「村岡花子記念講座」開設企画セミナー開催

—港区と東洋英和女学院の連携事業—

「日本の近代化とキリスト教学校

～女子教育の歴史にみる東洋英和～」

東洋英和女学院大学では、2017年度より新たな記念講座を開設するにあたり、そのプレ企画としてパネルディスカッションと講演で構成される連続セミナーを実施いたします。

連続テレビ小説「花子とアン」の主人公のモデルにもなった卒業生村岡花子女史の名前を冠する記念講座では、女性学と自校史がテーマとなりますが、今回のセミナーでは東洋英和の近代を題材にキリスト教学校のあり方を考えます。



第1回：2016年10月15日（土）＜パネルディスカッション＞
「女子教育とミッションスクール」

- 加納孝代／活水女子大学学長
- 村上陽一郎／東洋英和女学院評議員 ほか
- モデレーター：泉恵理子／日経ビジネスアソシエ編集長

第2回：10月29日（土）＜講演＞
「史料室所蔵資料にみる女学生の日常」

- 東洋英和女学院史料室

第3回：11月19日（土）＜講演＞
「三人の女性から日本の近代を読む」

- 与那覇恵子／東洋英和女学院大学教授

第4回：2017年1月21日（土）＜講演＞
「日本の近代化を支えた女性たち」

- 池田明史／東洋英和女学院大学学長

第5回：1月28日（土）＜パネルディスカッション＞
「これからの社会とキリスト教学校」

- 村岡恵理／作家
- 深町正信／東洋英和女学院院長 ほか

※時間はいずれも14時～16時

受講料：無料

場所：東洋英和女学院大学
大学院201教室(六本木キャンパス)
東京都港区六本木5-14-40

【申込方法】

メール、FAX、往復ハガキにて下記生涯学習センター横浜キャンパス事務室宛にお申込ください。

◎宛先

東洋英和女学院大学 生涯学習センター
〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町32
TEL：045-922-9707 FAX：045-922-9701
E-mail：shougaictr@toyoeiwa.ac.jp

◎記入事項

お名前、ご住所、電話番号、FAX番号、参加希望の回（複数回記入可）をご記入ください。

◎当日

返信FAX、返信ハガキを必ずご持参ください。メールにてお申込の場合は返信メール画面写等確認可能なものをご提示ください。

◎申込締切

各回開催日の2週間前（各回先着順200名）

Topics

八代目中村芝翫襲名披露公演 歌舞伎座

東洋英和幼稚園卒園生である歌舞伎役者の中村橋之助丈が、名跡・八代目中村芝翫を襲名することになりました。この慶事をお祝いし、是非観劇くださいますよう、ご案内申し上げます。

10月 「十月大歌舞伎」

昼の部 幡随長兵衛
夜の部 口上 熊谷陣

11月 「吉例顔見大歌舞伎」

昼の部 連獅子
夜の部 口上 盛綱陣屋



【申込先・問合せ先】 八代目 中村芝翫 e-mail nakamurashikan@gmail.com fax 03-3406-4102

Goods

楓の会グッズ

楓の会ではグッズとして「マグカップ」と「ストラップ」を販売しています。楓の会関連および学院関連イベントでぜひお求めください。

「オール英和マグカップ」(左)「英和ペアマグカップ」(右)
価格：いずれも1,500円、「ストラップ」(革製・黒) 800円



「ストラップ」
(革製・黒)

東洋英和楓の会主催イベントのお知らせ

楓の会では、以下のイベントを予定しています。ぜひご応募ください。

「ザ・メイプルズ・コンサート～珠玉のオペラ合唱曲を歌う～（秋の芸術公演）」



ザ・メイプルズ合唱団

日 時：2016年11月12日(土) 14時～(12時30分頃受付開始)

場 所：中高部 新マーガレット・クレイグ記念講堂

出 演：指揮・江上孝則

ソプラノソロ・MASAMI

ピアノ・岡崎渚紗、牧華子

ダンス・高井彩加

合唱・ザ・メイプルズ

曲 目：オペラ「タンホイザー」「カルメン」「魔笛」より

オペレッタ「メリー ウィドー」「こうもり」より 他

チケット：2,000円

【申込方法】

下記事項を明記の上、メールにてお申し込みください。

お申し込みは楓の会会員に限ります。

名前、学院との関係、電話番号、人数(原則4名まで)

kaedenokai@toyoeiwa.ac.jp

電話・FAXでのお申し込みも受け付けます。

TEL03-3583-3354

FAX03-3584-5227

※電話での受付は9:00～17:00(土日・祝日を除く)

【申込期間】

2016年10月3日(月)～11月2日(水)

定員になり次第締め切らせていただきます。当日受付でお名前と申し込み人数を確認させていただいたのち、代金と引き換えにチケットをお渡しいたします。



江上孝則(オペラ指揮者)



MASAMI(オペラ歌手)

ザ・メイプルズ合唱団の紹介

2012年楓の会オペラ名曲コンサートのために結成された、学院初の混声合唱団。同窓会総会、ホームカミングデーなど学院内の行事で発表の場を重ね、2015年代々木上原けやきホールにて初の単独コンサートを成功させる。現在、メンバーは約50名。MASAMI(奥村昌見、76年高等部卒)の指導で、オペラの合唱曲を中心にレパートリーを増やしている。